

第149回エイズ動向委員会

委員長コメント

《平成29年第1・第2四半期》

【概要】

1. 今回の報告期間は平成28年12月26日～平成29年3月26日（以下A、前年同時期を α とする）
平成29年3月27日～平成29年6月25日（以下B、前年同時期を β とする）の約半年
2. 新規HIV感染者報告数は（A）241件及び（B）265件（（ α ）250件及び（ β ）239件）
3. 新規AIDS患者報告数は（A）84件及び（B）99件（（ α ）102件及び（ β ）112件）
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は（A）325件及び（B）364件

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが（A）184件及び（B）188件
（新規HIV感染者報告数の（A）約76%及び（B）約71%）
 - 異性間性的接触によるものが（A）38件及び（B）49件
（新規HIV感染者報告数の（A）約16%及び（B）約18%）
そのうち（A）は男性32件、女性6件（B）は男性41件、女性8件
 - 静注薬物によるものは（A）、（B）共に0件
 - 母子感染によるものは（A）、（B）共に0件
 - 年齢別では、20～40代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが（A）53件及び（B）47件
（新規AIDS患者報告数の（A）約63%及び（B）約47%）
 - 異性間性的接触によるものが（A）15件及び（B）22件
（新規AIDS患者報告数の（A）約18%及び（B）約22%）
そのうち（A）は男性13件、女性2件（B）は男性16件、女性6件
 - 静注薬物によるものは（A）で1件
 - 母子感染によるものは（B）で1件
 - 年齢別では、30～50代が多い。

【検査・相談件数の概況（平成29年1月～6月）】

1. 保健所におけるHIV抗体検査件数（速報値）は（A）20,948件及び（B）22,767件
（前年同時期確定値（ α ）22,533件及び（ β ）21,080件）
自治体を実施する保健所以外の検査件数（速報値）は（A）7,173件及び（B）7,428件
（前年同時期確定値（ α ）7,170件及び（ β ）7,214件）
2. 保健所等における相談件数（速報値）は（A）29,396件及び（B）30,748件
（前年同時期確定値（ α ）30,146件及び（ β ）28,868件）

【献血の概況（平成29年1月～6月）】

1. 献血件数（速報値）は、2,404,606件（前年同時期2,429,770件）
2. そのうちHIV抗体・核酸増幅検査陽性件数（速報値）は26件（前年同時期18件）
10万件当たりの陽性件数（速報値）は、1.081件（前年同時期0.741件）

《まとめ》

1. 平成29年の新規HIV感染者報告数を前年同時期と比較すると、第1四半期は減少していたが、第2四半期は増加した。新規AIDS患者報告数については第1、第2四半期共に前年同時期より減少していた。
2. これまでと同様、平成29年上半期の新規HIV感染者は20～40代、新規AIDS患者は30～50代で報告数が多かった。平成29年度第2四半期に、外国籍の母子感染エイズ症例が報告された。一方で、70歳以上の新規HIV感染者及び新規エイズ患者も報告されており、幅広い年齢層の報告がある。
3. 平成29年第1四半期の保健所等におけるHIV抗体検査件数及び相談件数は前年同時期に比して減少していたが、第2四半期では前年同時期に比して増加していた。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくので、今後も保健所等の無料・匿名HIV抗体検査及び相談を積極的に利用していただきたい。